



札幌教区におけるシノドスの歩み

2021年9月に、教皇フランシスコの呼びかけで始められたシノドス「ともに歩む教会のため」交わり参加、そして「宣教」の歩みは、札幌教区でも大詰めを迎えました。

2年前にこの呼びかけに応えて札幌教区でも「シノドス・チーム」が設置され、各小教区に任命されたシノドス担当者を通して、各々の小教区で分かち合いを中心とした歩みを進めるよう呼びかけました。そしてその結果は昨年「札幌教区シノドス報告書」として中央協議会シノドス事務局に提出され、札幌教区は次なるシノドスの歩みへと進み始めました。ここからは、教区独自の歩みとなります。

札幌教区のシノドスの歩みとして「シノドスの歩み第3報」を配信しました。コロナ禍において、各小教区で進める難しさもありましたが、共同体の中での分かち合いを進めていく上で、それぞれの共同体で「①大切なものを3つ」探し出し、「②それを具体的に実践する方法」を報告するようお願いしました。その結果は、6月24日（土）に開催された教区宣教師司牧評議会でも報告されました。（教区宣教師司牧評議会はこの3年間、中止もしくはオンライン開催を余儀なくされておりましたが、今回は対面とオンラインのハイブリッド式で開催することができました。）

コロナ禍であったにもかかわらず、多くの小教区でシノドスの歩みを進めてくださったことに、驚きと感謝の念を抑えられません。一例として、次の2教会からの報告を掲載します。

【北1条教会】（抜粋）

①大切なもの「高齢者対応：病気等によって教会に来られなくなった信徒へのケア」

②具体的な方法「病気や、施設に入るなど、教会に来られなくなった信徒へのケアとして（死を迎えるにあたって）、信徒一人一人の心構え・意識について：病者の塗油の再認識、病者に寄り添うイエスを学び、委ねられた信徒の働きを思い起こす。エンディングノートについて：死の準備ではなく、生きてきた人生を見直すものとしてのカトリック的な活用。

【北見教会】（抜粋）

①大切なもの「来られなくなった方々とのきずなを回復し分かち合いに努める。」

②具体的な方法「地区連絡員と連携して、来られなくなった方の現状を知り、つながりを持つことに取り組んでいく。例えば、連絡員とのミーティングを行う。住所不明・変更した方を調べる。教会との絆を回復することに取り組む。」

これは、あくまで一例ですが、多くの共同体で「①いま教会にいる人の関わり」「②教会に来られない、来なくなった人との関わり」「③新しく教会に来た人たち（特に外国籍信徒）との関わり」が分かち合いの話題として、テーマとなっていることが窺えます。

報告の中には「いつまでこのシノドスを続けるのか？」とか、「まだやっているのか？」という批判的な意見も一部に聞かれました。しかし、多くの共同体からは、実際にシノドスを進めてみて「共同体での分かち合いがとても良い」とか「ぜひ、この歩みを今後も続けていきたい」という肯定的な意見が多く寄せられました。今の教会に必要なのはこのように「心の交わり」なのではないでしょうか。

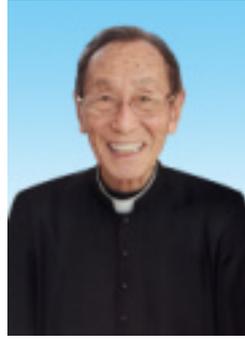
最後にシノドスの歩みは、今回の報告が終わったところで終わりになるようなものではなく、むしろこれから始まる歩みであることを、勝谷司教の言葉でも再確認し閉会しました。報告された各共同体の歩みについては、今後、これまでの資料と共に、何らかの形ですべての小教区に共有していくことを考えています。

（教区宣教師司牧評議会運営委員長・シノドス担当司祭・佐久間 力）



訃報

アンジのフランシスコ谷内武雄神父様は、2020年4月より月形藤の園で療養中だったが、2023年6月9日午後3時56分、肺炎のため入院先の腎友会若見沢クリニックにて神様のもとに召された。満92歳。6月11日は一般信徒の弔問を受け、



葬儀はカトリック北一条教会にて6月12日・13日に執り行われた。ご遺骨は納骨式（札幌地区合同墓参り9月24日を予定）まで札幌教区カトリッククセンター地下納骨堂・クリプト札幌に安置されており、毎日午前9時から午後4時まで自由に墓参りすることができるとのこと。

【谷内神父様略歴】

- 1931年 1月27日 北海道小樽市生まれ
- 1950年12月24日 小樽住ノ江教会で受洗
- 1961年 3月21日 北一条教会で司祭叙階
- 1961年 4月 1日 山鼻教会助任
- 1963年 4月 1日 小神学校校長
- 1965年～ 月寒教会、円山教会主任代行
- 1970年～ 月寒教会、住ノ江教会、大麻教会、千歳教会、富岡教会、北見教会、山鼻教会、真駒内教会主任歴任
- その間、俱知安藤幼稚園園長、北見地区長、司教総代理歴任
- 2011年 5月 1日 休養
- 2012年 4月 1日 新田教会協力、後に主任代行
- 2020年 4月13日 月形藤の園にて療養
- 2023年 6月 9日 帰天 満92歳

この他、ハンセン病患者支援、アルコール依存症者支援（札幌マック）、受刑者訪問など、長きに渡り常に社会的弱者と向き合い共に歩まれた。



全道司祭大会

2023年6月6日から8日にかけて全道司祭大会が開催された。会場は札幌北広島クラッセホテルで最終日の派遣ミサは北広島教会で行われた（下部に集合写真）。参加した聖職者は司教・司祭・助祭を含め30名であった。その中にフランシスコ会管区長の桑田神父も東京からオプザーバーとして参加された。

大会のテーマは「札幌教区の将来の司牧を考える」というものである。これは2022年3月に出された勝谷司教の諮問を受けて札幌教区小教区再編諮問委員会が招集され、2023年3月に勝谷司教に答申されたものである。答申を受けた勝谷司教から札幌地区長司祭である佐藤を通して、札幌地区宣教司牧評議会にその答申の内容を札幌地区で実現していくためにはどうすればいいのかを検討するた

めの諮問がなされている。大会2日目の午前に諮問委員会の座長である柳澤辰也氏（北一条信徒）がその内容を札幌教区の聖職者に説明、午後からは5つのグループに分かれて分かち合いが行われた。分かち合いを通して札幌教区での宣教司牧をどのように進めていけばいいのかを再確認することができたのではないかと。また上からの押し付けではなく信徒の意見を反映していくという勝谷司教の考

えをよく理解できたのではないかと。思う。

大会では二人の司祭の帰天が発表されたが、大会終了直後の6月9日には谷内神父の帰天も伝えられた。司祭が減少する中で、残された司祭とともに信徒が一緒になって札幌地区再編を進め、よりよい宣教司牧が進められるよう、帰天された司祭の取り次ぎを願いたいと思う。

（司祭評議会運営委員長・

佐藤謙一神父）



おめでとうございます



ダイヤモンド祝
アジジのフランシスコ
久保寺 綱郎 師 (札幌教区司祭)
1934年6月18日生89歳
1963年3月21日叙階後、雪の聖母園に赴任、その後北1条・北広島・山鼻助任、三笠・新田・夕張・湯川・花川・北26条・北1条主任。雪の聖母園や花川マリア幼稚園園長も歴任、現在新田教会協力司祭。



金祝
洗礼者ヨハネ
ハンス ユーゲン・マルクス 師
1944年7月7日生79歳
ドイツ生まれ。1965年神言修道会入会、1973年9月8日叙階。1975年南山大学着任。南山大学学長、南山学園理事長、南山大学附属小学校校長歴任。2017年藤女子大学学長着任、現在に至る。



金祝
アンドレア
齋藤 巍 師 (厳律シトー会)
1944年11月25日生78歳
中国河北省生まれ。1973年1月3日叙階。2000年1月2日入会。2007年9月9日盛式誓願。函館トラピスチヌ修道院チャプレン、通訳、典礼、病室係等を受け持つ。

シャルトル聖パウロ修道女会 来日145周年



去る5月17日、元町カトリック教会において本会の来日145周年記念感謝ミサを勝谷司教様はじめ12名の司祭団の共同司式で捧げることができました。式は多くの方々の祈りが一つとなって、荘厳な中にも感謝と喜びに満ちたものとなりました。

禁教令が解かれて間もない明治11年5月28日、オズーフ司教様に招かれて函館に到着して以来、診療所を手始めに、町と人々の必要に応じて乳幼児のための福祉施設、さらに女子教育を通して奉仕してまいりました。診療所は時代の変化に伴い役目を終えましたが、社

会福祉事業は「きより園」「ナザレ園」の2か所が、教育事業は「白百合学園」として、現在も全国8か所で続けられています。

大火や震災をはじめ、多くの困難を乗り越えて、この日を迎えたことは神さまの導きのもと、聖母マリアの愛に倣って生きた先人スール方の厚い信仰のたまものです。

修道召命の減少と修道者の高齢化は世界的に教会全体の課題ですが、この感謝のミサでは、若いベトナム人スールの躍動が式を盛り上げました。本会のモットーである聖パウロの大胆さと宣教の熱意

は、彼女たちを通してこれからの歩みに希望と力を予感させ、修道会の新たな展望を拓くものとなりました。全ては御手の中、神のみわざに賛美。

(シャルトル聖パウロ修道女会・森本初世)

滝川教会50周年

5月28日初夏の晴れやかな日差しの中、聖霊降臨の祝日にカトリック滝川教会の50周年記念ミサが行われました。司教様をお迎えし、初代滝川教会主任司祭であったヒラリオ神父様、隣の砂川、美

唱教会の主任ナルチゾ神父様、光明社の山谷神父様そして空知地区の3教会の皆さまとともに迎えることができました。小さな教会がいつぱんに百人ぐらいの大きな賑わいとなり、厳かでもあり、笑いもありのミサで、懐かしい人々と迎えた50周年は滝川教会の信徒の大きな喜びとなりました。

滝川教会の保護聖人は聖マキシミアノ・マリア・コルベ神父様ですが、もう一つの宝物があります。それは「叩き潰された聖母像」です。

日露戦争終戦後、ご両親と一緒に滝川屯田に住んでいた見玉さんという若い父親がウツド神父様

(滝川教会・濱本和子)



(稚内、岩見沢、留萌、帯広、網走へと宣教)に出会い洗礼を受け、空知の最初のキリスト信者になりました。息子が耶穌教の信者になったといふことで激昂した父親がウツド神父より洗礼の記念にと贈られた「お恵みの聖母」といわれるマリア像を火の中にくべ、真っ赤に焼けたところを金槌で叩き潰し、雪の中に放り投げてしまいました。人間に見捨てられても、神は人間を見捨てない、のちにマリア像を捨てた老人は立派な信徒として亡くなったといふことです。

この一族からは、司祭、修道女が出ております。50周年の記念ミサの中で司教様も同じような例についてお話しくださいます。このマリア像はフランシスコ会修道士となった故ヨゼフ見玉敏さんから、家族で住んだ滝川教会にと寄贈されたものです。

2023年度 教区関係機関 担当司祭一覧

◎運営委員長

2023年5月1日 現在

委員会名等	役員・委員名	任期	備考
宗教法人責任役員	勝谷 太治 司教	3年	教区長代表役員
	今田 玄五 師		司教総代理
	祐川 郁生 師		
	佐藤 謙一 師		
教区顧問会	今田 玄五 師	5年	司教総代理
	上杉 昌弘 師		
	祐川 郁生 師		
	佐藤 謙一 師		
	ライヤ 師		
	間野 正孝 師		
松村 繁彦 師		事務局長	
教区司祭評議会			
司教総代理 事務局長 札幌地区 ◎ 北見地区 釧路地区 旭川地区 苫小牧地区 函館地区	今田 玄五 師	3年	司教総代理
	松村 繁彦 師		事務局長
	佐藤 謙一 師		地区長
	間野 正孝 師		
	内藤 孝文 師		地区長代理
	川上 剛 師		地区長
	佐久間 力 師		地区長
	長尾 俊宏 師		
	蓑島 克哉 師		地区長
ライヤ 師			
祐川 郁生 師		地区長	
教区宣教司牧評議会			
司教総代理 事務局長 札幌地区 北見地区 釧路地区 旭川地区 ◎ 苫小牧地区 函館地区	今田 玄五 師	2年	司教総代理
	松村 繁彦 師		事務局長
	佐藤 謙一 師		地区長
	後藤 義信 師		
	間野 正孝 師		
	内藤 孝文 師		地区長代理
	川上 剛 師		地区長
	佐久間 力 師		地区長
	ナルチゾ 師		
蓑島 克哉 師	地区長		
ライヤ 師			
祐川 郁生 師		地区長	
教区委員会			
財政委員会 青少年委員会 教区神学生養成委員会 ◎ 典礼委員会 ◎ 広報委員会 聖書委員会 社会委員会 難民移住移動者委員会 ベトナム人司牧担当 カリタス・ジャパン 札幌カリタス 正義と平和協議会 エキュメニカル	松村 繁彦 師	2年	事務局長 教区会計
	佐藤 謙一 師		
	佐久間 力 師		
	祐川 郁生 師		
	佐藤 謙一 師		
	蓑島 克哉 師		
	ライヤ 師		
	佐藤 謙一 師		
	祐川 郁生 師		
	今田 玄五 師		
	川上 剛 師		
	上杉 昌弘 師		
	松村 繁彦 師		
	蓑島 克哉 師		
	祐川 郁生 師		
チャン・タン・ラム 師			
松村 繁彦 師			
佐藤 謙一 師			
蓑島 克哉 師			
蓑島 克哉 師			
月例関係			
月例静修委員会	新海 雅典 師	2年	
	蓑島 克哉 師		
	佐久間 力 師		
その他			
ハラスメント対応デスク 担当 ハラスメント対応デスク 対応委員会	松村 繁彦 師		
	担当司祭を置く		(非公表対応)

2022年度 カトリック札幌司教区本部一般会計 決算書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
分担金収入	80,920,000	80,465,000	
教区本部分担金（札幌地区）	54,000,000	53,500,000	減額
教区本部分担金（苫小牧地区）	5,690,000	5,690,000	
教区本部分担金（旭川地区）	7,190,000	7,235,000	過年度1 翌年払1
教区本部分担金（釧路地区）	3,310,000	3,310,000	
教区本部分担金（函館地区）	9,030,000	9,030,000	
教区本部分担金（北見地区）	1,700,000	1,700,000	
一般寄付金	14,000,000	6,393,985	白石墓献金・トラピスト・葬儀香典他
司祭寄付金	0	2,100,000	司祭2
広報の日献金振替収入	400,000	311,698	広報の日献金収入の50%
難民移住移動の日献金振替収入	400,000	345,559	移住移動献金収入の50%
その他援助金収入	0	0	
受取利息配当金収入	1,000	337	
賃貸料収入	3,600,000	3,621,732	カトリック学園事務所家賃・電柱土地代
保険料収入	0	0	
特定積立金取崩収入（一般口）	7,000,000	2,000,000	
特定積立金取崩収入（青少年）	0	0	
特定積立金取崩収入（管理口）	7,000,000	7,887,066	管理人件費・光熱費分
特定積立金取崩収入（司祭口）	0	2,300,000	司祭車両手当1/2
退職積立金取崩収入	7,530,000	7,530,000	退職1名分
祭儀献金振替収入	32,000,000	37,243,350	司祭・フランススコ会より
未収入金	0	0	
前年度未収入金	0	0	
雑収入	15,000	310,000	移住者連帯NW職員派遣謝金
計	152,866,000	150,508,727	
前年度繰越金	5,193,222	5,193,222	
合 計	158,059,222	155,701,949	

支出の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
宗教活動費支出	6,920,000	4,508,695	
祭儀費	500,000	2,737,674	式次第・ホスチア・司祭葬儀他
図書資料費	200,000	123,931	カトリック新聞・NHK他
教区宣教活動費	4,920,000	960,583	正平協・青年の家・教区宣司評他
国際協力活動費	1,300,000	686,507	移住移動者委員会
一般寄付金支出	21,800,000	21,605,675	フランススコ会へ
宣教省献金支出	1,000,000	1,000,000	
分担金支出	1,550,000	1,550,000	
中央協議会分担金	950,000	950,000	
東京管区裁判所経費分担金	100,000	100,000	
放送分担金	500,000	500,000	こころのともしび
本部援助金支出	0	0	
人件費支出	80,350,000	75,853,641	
本部司祭給与	52,000,000	48,701,250	給与20名・車両手当16名
本部司祭法定福利費	5,600,000	4,513,535	
本部職員給与	13,220,000	13,190,520	職員3名・パート2名（内1名北1条と折半）
本部職員法定福利費	2,000,000	1,918,336	
退職金	7,530,000	7,530,000	退職1名
運営管理費支出	23,195,000	24,624,719	
業務委託費	9,100,000	9,387,805	賄い・清掃費・会計ライセンス・除雪他
施設設備修繕費	300,000	145,112	センター排水設備・配管凍結修理他
備品修繕費	0	58,520	ソフト保守
墓地管理料	400,000	801,350	白石墓プレート
損害保険料	670,000	583,550	火災保険料・賠償責任保険料
消耗品費	1,000,000	1,114,792	ソフト・PC利用料・コピー他
通信運搬費	1,000,000	1,012,074	電話・FAX・ネット他
会議費	200,000	29,445	7回
渉外費	200,000	142,330	大分叙階祝・中央協他
慶弔費	100,000	37,510	教区司祭花代・弔電
旅費交通費	500,000	675,036	司教司祭出張・会議旅費
光熱水費	4,600,000	5,341,478	電気・水道・ガス
租税公課	50,000	15,970	印紙税他
報酬手数料	2,500,000	3,037,528	会計士・社労士・振込料他
賃借料	1,225,000	716,998	電話機・PC・複合機他
車両費	400,000	468,600	ガソリン代
広報費	500,000	678,700	教区NEWS4回
福利厚生費	440,000	354,546	司祭職員健康診断他
雑費	10,000	23,375	ゴミ処理他
建物取得支出	0	0	
建物付属設備支出	0	0	
構築物取得支出	0	0	
機器備品取得支出	300,000	626,450	給与ソフト
退職金積立支出	750,000	750,000	職員退職積立3名
当座等積立金組入支出	15,000,000	15,000,000	センター当座積立
予備費	7,194,222	0	
計	158,059,222	145,519,180	
次年度繰越金	0	10,182,769	
合 計	158,059,222	155,701,949	

聖母に捧げられた教会での特別な祈り

2023年5月31日10時より、札幌北26条教会において「聖母に捧げられた教会での特別な祈り」が行われた。(写真左上)

当日は晴天の中、札幌地区全域から信徒・修道者・司祭のおよそ百名が集まった。北26条教会は「北の国の聖母」の教会。

祈りの会の冒頭に勝谷太治司教が挨拶の中で「シノドスの意向に従って捧げられる今日の祈りは、本来的な教会の動きに聖母マリアの祈りの支えが必要」、

「ともに祈り歩んでいけるよう皆さんと共に祈りたい」と語られた。聖母訪問の祝日にあたり、

口ザリオの喜びの玄義で一環を参加者で唱え、その後ミサを捧げた。

ミサの中で勝谷司教は「バチカンから要求されるいろいろな



コロナ後の恵庭教会

課題に取り組むことは、何か宿題をこなしているように感じることもあります。しかし、シノドスは教会の本来の姿を取り戻す働きであって、終わることはありません」と。また「開かれた教会とは、具体的に向かい合う宣教スタイルだけの事ではなく、すべてを受け入れる教会の姿です。私たちはそこに奉仕をするのです。」と語られた。

この言葉を受けて、参加者一人一人がマリア様の取り次ぎを願ったひと時となった。(松村繁彦)

また、「無原罪の聖マリア」旭川六条教会においても同日10時より長尾俊宏司式により祈りとミサが捧げられた。(写真左下) 2週間前から市内3教会に呼びかけ15名が集まった。(旭川五条教会・荒木関充)

カトリック恵庭教会にボナヴェントウラ・蓑島克哉神父がおいでになって2か月、6月11日はフィリピンからの巡礼団をお迎えする運びとなり、20名を超える巡礼団と共に、総勢50名ほどのキリスト信者がキリストの聖体のミサを祝いました。

この日には集会祭儀司会者の任命式と、蓑島神父の歓迎会も重なり、恵庭教会として未永い思い出となるに違いないひとときとなりました。

歓迎会では、蓑島神父の司祭召命のいきさつのお話や、新しく恵庭教会においでになった方々の自己紹介がありました。定年退職を機に恵庭の地に越してこられたご夫婦、ウクライナ生まれのご婦人の(教会との出逢いの)お話には驚かされるものがありました。また、しばらくぶりにご聖体を拝領されたご婦人と恵庭教会の古くからの信徒との数奇なつながりも明らかになりこれまた驚かされました。その後、恵庭教会の信徒の様々な召命物語の分かち合いも行われ、そのような分かち合いは、振り返ってみればこれまでになく、大変新鮮なものでした。すべては神のご計画と思わずにはい



れない一日。出逢い、出逢わされの日曜日となりました。

今後も神の導きのもと、蓑島神父と一緒に変わらず活動を続けて参ります。ほんの一日の出來事の振り返りには過ぎませんが最近の活動報告に代えることと致します。

(恵庭教会・高橋秀樹)

お食事処再開・帯広教会

6月18日日曜日に、3年振りに御食事会が開催されました。



メニューは、御赤飯とご飯の2チョイスと、唐揚げ、昆布の佃煮、胡瓜の煮物、サクランボ、フキの煮物、御味噌汁と、まるでランチタイムのようでした。約30名の方々、今まで参加して下さらなかつた方々、ベトナム人など、大勢が笑顔の内に食事と互いの交流を楽しんでおられました。

今回は、有志の御婦人方が準備して下さいました。月一回の開催で、その他の日曜日は、お茶会の予定です。7月は、神父が腕を振るってカレーライスでもてなします。(加藤鐵男神父)

アイヌ民族との共生を目指して

カトリック小樽教会 新海雅典神父

最終回 カトリック教会は何ができるのか

もう30年以上も前の話したが、二風谷の故萱野茂氏宅でお茶をこちそうになっていた時、「この村にアイヌの子供たちの保育園を建てたいと思う。そこでアイヌ語を使って教育したいと考えているが、カトリックさんでそれを運営してもらえんかな」という提案を受けた。早速地主司教に相談したところ、「実際にアイヌ語を常用となると厚生省が許可しないだろう」と言われた。札幌教区は北海道全体を宣教司牧の範囲としているが、アイヌ民族との交わりはほとんど持っていない。

またである。

かつて私が担当司祭をしていた正義と平和委員会の時代には、全国大会を札幌で何度か開催した際、必ずアイヌ民族の代表者を招いて基調講演をして戴き、更に分科会や現地学習なども積極的に行った。残念ながら現在はメンバーの高齢化が進み、かつてのようなダイナミックな活動は影を潜めている。

さて現在、浦幌町のアイヌ民族が強く訴えている「鮭(カムイチュエプ)の捕獲」や、「エゾ鹿(ク)の狩猟」の権利回復の課題が未解決のまま横たわっている。国と北海道は、アイヌモシリを侵略して奪い、あらゆる権利を抑圧してきた歴史を悔い改めて、「アイヌ民族との真の和解と共生を目指す社会」を築かなければならない。

かつて私が担当司祭をしていた正義と平和委員会の時代には、全国大会を札幌で何度か開催した際、必ずアイヌ民族の代表者を招いて基調講演をして戴き、更に分科会や現地学習なども積極的に行った。残念ながら現在はメンバーの高齢化が進み、かつてのようなダイナミックな活動は影を潜めている。



台湾の先住民族の曾健次カトリック司教(前列中央)を招いての交流会

白石共同墓増設完成

札幌市白石本通墓地の一角にあるカトリック札幌教区白石共同墓(カロート)はまもなく充溢することから、2022年より増設計画を進めていたが、2023年6月22日完成した。

増設カロートは立位で納骨する方式のため、高さ2メートル余りの構築物(写真右)となっている。9月24日合同墓参で祝別式を行い、現カロートが充溢した後使用を開始する予定。



白石共同墓

札幌市白石区平和通10丁目北5-1
札幌市白石本通墓地

札幌教区の司祭・修道者・信徒ならびにその家族を対象とした合葬墓

クリプト札幌

カトリック札幌司教区納骨堂

札幌教区カトリックセンター地下
家族壇568区画・合葬壇730
天候問わずいつでも墓参可能

お問い合わせ 〒060-0031 札幌市中央区北一条東6丁目10 札幌司教区本部事務局
電話 ■白石共同墓：011-241-2785 ■クリプト札幌：011-221-4244
いずれも平日9:00~17:00 (土曜日曜日及び夏季冬季休業を除く)



■■お願い■■

お盆を控え墓参の機会も増える頃を迎えました。納骨式及び墓参の際に飾る供花等は、終了後必ずお持ち帰りください。できるだけゴミ置き場に捨てず、美化にご協力ください。

旭川藤星高等学校 創立70周年記念式典

去る4月22日、同校体育館にて標記記念式典が行われた。1953年創立された旭川藤星女子高等学校(藤学園)は、2019年(学)北海道カトリック学園(勝谷太治理事長)に引き継がれ、校名を旭川藤星高等学校と改めるのと同時に共学化した。以後、順調に生徒数も増えている。

式典第一部は、聖歌や聖書朗読、勝谷理事長の祝詞などによる「みことばの祭儀」形式で行われ、生徒たちによる聖歌の歌声は若々しく、コロナ禍が収束しつつあることを実感した。



式典第二部では山本周男校長が、変化の激しい時代にあるからこそ、キリスト教の価値観に学び、カトリック校がもつ使命を果たすことの意義を強調された。続いて今津寛介市長や(学)藤学園永田淑子理事長の来賓祝辞や生徒代表芳賀翔太君による決意表明があり、共にさらなる飛躍を誓い合う式典となった。

(品田典子)

憲法講演会

「安保3文書と憲法9条」

「ピース9の会月寒」「ピース9の会はまなす」主催、カトリック札幌教区正義と平和協議会共催による憲法講演会が、6月10日13時半より、札幌教区カトリックセンターにおいて、会場52名、Zoom32名、計84名の参加により開催された。講師は清末愛砂氏(室蘭工業大学大学院研究科教授・憲法学)。

講演は、岸田政権が閣議決定した「安保3文書」の解説を中心に行われ、清末氏は、①国家安全保障戦略(2013年策定)は、「積極的軍事主義」へ、②防衛大綱(2018年策定)は、「国家防衛戦略」へ、③中期防

衛計画(2018年)は「防衛力整備計画」へ、より鮮明に、それぞれ完全に軍事力に依拠した方針を提出した恐ろしい事態であると強調。そして私たちは、憲法の平和主義を支える「憲法9条」と家庭生活における個人の尊厳を守る「憲法24条」を守ることが大切であると述べた。

さらに、私たちの住む北海道は、沖縄と共に米軍と自衛隊の「共同使用」が増加している。「米軍と一体化ではなく、一部化」になる恐れがあると、一部改めて、「安保3文書」等、岸田政権の「軍拡の動き」を注視し、明確に「ノー」を突き付けていかなければならない」と訴えられた。

(ピース9の会月寒・山口雄司)



「戦争と平和」

「私たちが学び」

次世代に伝えるために

7・7平和集会報告

日中戦争の直接の契機となった盧溝橋事件が起こったのは、1937年7月7日でした。7・7平和集会は、1985年8月15日に故中曽根首相が靖国神社を公式参拝したことをきっかけに、改めてアジアの平和を願い、日本の軍拡に反対することを目的に、1986年から始まりました。

飯塚正樹さんに講演をお願いしました。講演では、18歳選挙権の話など、彼らの今の生活にある身近な出来事と政治や歴史をどのように関連付けて教えているかを中心にお話が進められました。「なぜ?」「何のために?」「そんな問いかけを与え、自分事として自分で考えることを繰り返し伝えていきます。」

コロナ禍を経て、今年は第38回目を迎えたこの集会の大きな意義は、いろいろな団体がこの日のために協力して行うという点で、カトリックでは正義と平和協議会がそのメンバーとして参加しています。

会場に集まった大人たちにもこんな質問がありました。「若い人が選挙に行かないから、政策が高齢者を対象としたものになっていると思いませんか?」「飯塚さんの回答は、「高齢者の政策がうまくいっていると思いませんか?」「選挙に行かないのは若い人だけですか?」という問いが続き、働きかけるのは若い人だけではないというものでした。

昨年行った集会の質疑応答の時、小学校の先生からこんな声がありました。「今、子どもたちに平和を教えるのが難しい。」この言葉が実行委員会のメンバーの心に残っていました。そこで、今年からは平和教育を積極的にやっている先生にお話を伺えないかと探し、北海道江別高等学校定時制課程で教えていらっしゃる

「労働教育」でした。教員自身がのびのびとした環境で子どもたちに接しなければならぬと痛感し、働くことが楽しいと思えるような労働環境を守るために教職員組合の仕事にも力を入れているということでした。(札幌教区正義と平和協議会・西 千津)

「労働教育」でした。教員自身がのびのびとした環境で子どもたちに接しなければならぬと痛感し、働くことが楽しいと思えるような労働環境を守るために教職員組合の仕事にも力を入れているということでした。(札幌教区正義と平和協議会・西 千津)



◆敵律シトー会



フランシスコ
田中寅男修道士

6月24日午前10時22分、函館市内の病院にて神様のみもとに召されました。84歳。

【略歴】

1939年1月17日生まれ
1960年8月15日受洗
1988年9月25日入会
1994年4月8日盛式誓願宣立

◆殉教者聖ゲオルギオの
フランススコ修道会



Sr.M.セレナ
吉田 ミエ

5月13日朝、花川マリア院にて神様のみもとに召されました。96歳。

【略歴】

1927年3月18日生まれ
1955年8月15日受洗
1957年3月30日入会
1964年9月23日終生誓願
2019年11月2日ダイヤモンド祝



Sr.M.クレメンズ
ニーハウス

6月29日午前8時34分、札幌心臓血管クリニックにて神様のみもとに召されました。88歳。

【略歴】

1934年10月12日生まれ
1934年10月15日受洗
1956年4月6日入会
1963年8月12日終生誓願
2018年11月3日ダイヤモンド祝



Sr.M.ティモテア
丹代 ハツエ

6月30日午後8時53分、月形藤の園にて神様のみもとに召されました。95歳。

【略歴】

1927年12月20日生まれ
1952年8月14日受洗
1956年9月15日入会
1964年9月23日終生誓願
2018年11月3日ダイヤモンド祝



Sr.M.リナ
森本 佳余

7月6日午前2時40分、月形町立病院にて神様のみもとに召されました。86歳。

【略歴】

1936年7月14日生まれ
1958年4月6日受洗
1962年3月24日入会
1971年8月12日終生誓願
2014年11月22日誓願金祝

ともに生きる

他団体との連携

取り組むことができた。Aさんは、5年近く日本にいるけれど、日本語があまりできなかった。Aさんの「やさしい日本語」の実践

は、これから支援に関わってくださる方にも良いきっかけとなった。神の計らいは、わからない。

みなさんの周りにもいろいろな人がいるはずである。けっして一人で頑張らないで欲しい。支援は、一人ではできない。上から下への施しは、できて支援には繋がらない。寄り添い、共に立ち上がるために手を広げて、誰かと繋がって欲しい。

(札幌教区難民移住移動者委員会)

西 千津

私が外国人の支援をする場合にたっさんの仲間がいることは、教

ゴールデンウィーク明けに札幌区ニュース第37号に書いたが、そこから少し離れた所で働くインドネシア人女性Aさんの相談をインドネシア語ができる大学の先生経由で受けた。Aさんは「技能実習」で4年間、本州で働き、もっと違う仕事をしたいと「特定技能」という在留資格を得て、4月に北海道へ来ていた。しかし、雇用主の強い口調に身体が動かなくなってしまう。10年ほど前にDVを受けた彼を思い出し、Aさんは、カトリック信者だった。本州で働いていた時シフトの勤務だったので、日曜日は必ず休みではなかった。休みだったとしても近くに教会はなかった。一番近い教会へ行ってもミサが終わっている時間だった。そのため、日曜日には必ず母親が今日の福音をSNSで送ってきた。そこには毎回母親のメッセージもついていて、それが彼女の生活を支えていた。札幌で保護をして、日本で初めてミサに与った時、彼女は本当に嬉しそうだった。



2023年
日本カトリック
平和旬間4/6-15

8月15日(火)13時半、札幌教区カトリックセンターにおいて「平和を求める一日」を開催。お話し、映画上映、ライブプログラム他、16時からは義島神父による「平和を祈る会」。参加は自由。詳しくは各教会に配布しているチラシをご覧ください。

マリアの宣教者フランシスコ修道会

日本管区創立125年 宣教の灯をたずさえて



1898年、海外から5人の姉妹が日本に到着し、右も左もわからないまま熊本の地で宣教の歩みが始まりました。そして今年、マリアの宣教者フランシスコ修道会日本管区は来日125年を迎え、感謝のときを過ごしています。

会の歴史によれば、最初のミサの翌日に姉妹たちは宣教の場に案内され、ハンセン病者に出会っています。そして、お箸を使い、丁寧な日本式の挨拶を学び、日本文化に親しんでいきました。世界宣教に奉獻された私たちの修道会のいのちは、このように日本の地に宿り育まれてきました。

札幌に修道院が創立されたのは1908年。熊本修道院創立から10年目のことです。当時、まだカトリック教会が一つもなかった札幌に初めて開かれた修道院の聖堂には信者が集うようになり、教会共同体が作られました。後にフランシスコ会の兄

弟たちが札幌の司牧を担当することになったのも神様のお計りを感じます。

札幌教区内では天使病院、天使大学、天使幼稚園、そして北広島の養護施設天使の園で、白い修道服を着たシスターたちが働いている姿を目にした方も多かったのではないのでしょうか。

今は事業での役割を終えて、多くの姉妹は祈りの使徒職を生き

ています。しかし同時に、だんだん小さく弱くなる現実と向き合いながらも、どうしたら人々にキリストの愛を伝えていけるかを模索し続けています。私たちは神様からいただいた命をお返しするときまで、宣教者でありたいと願っているからです。

今年4月30日、北広島修道院

は95年の歴史に幕を閉じました。感謝ミサは教区長の勝谷司教様

と、長い間お世話になった久保寺神父様の共同司式で行われました(写真左下)。教会も新しい典礼に変わったばかりのこの時期、修道院も終わりではなく新しい歩みを始める気持ちで、支えてくださった信徒の皆様と共に深い感謝の祈りを捧げました。ミサの後には95年の歩みをスライドショーで上映し、この歴史に宿る恵みをあらためて振り返るひとときとなりました。

北広島修道院は北広島村民の方々からの要請に応じて天使病院分院が開設されたのを機に創

立されました。時代の流れのなかで病院は閉鎖され、戦争によって外国籍の姉妹が連行されるなど、さまざまな困難を通ってきましたが、シスターたちが退いた後も事業体では福音の精神を引き継いで、今も社会の必要に応え続けています。

修道会の在り方も変化していますが、教区の皆様に支えられてこそ、私たちのミッションは継続されていきます。普遍的な価値を見いだせない現代社会にあっても、宣教の灯を絶やすことなく、キリストの無条件の愛を人々に証する存在として、信徒の皆様と協働できる修道会でありたいと思っています。感謝と祈りのうちに・・・



札幌修道院



あとかたり 編集後語

司祭に叙階され初めて札幌を離れることに。この春、地区長として旭川地区に来たものの、

環境の変化に順応するのに四苦八苦しています。いま住んでいる留萌市は初めて住む街なので、暇を見つけてはあちこち歩き回って探索しています。やはり北海道は広くて多様な大地、足元に生える草花一つ一つでも、花が咲く季節も種類や植生も違っていて、歩くたびに発見があり、とても新鮮な毎日を送っています。北海道にも各地に教会がありますが、それぞれの文化の違い、自然環境の違いがありますから、教会もきつと同じように多様でしょう。イエス様がお造りになった世界と、イエス様がお建てになった教会。それぞれが響きあって、それぞれの福音宣教がある。そんなことを感じる今日この頃です。(佐久間力)

教区ニュース41号「北海道カトリック学園三校合同研修会」の表題は「北海道カトリック幼児連盟新任研修会」の誤りでした。お詫ひして訂正いたします。